

Water and Land - Niigata Art Festival

2012

# 2つの大河から生まれた新潟市。水と土の文化を掘り起こし、世界に向けて発信! 新潟市 水と土の芸術祭開催のお知らせ

水と土の芸術祭実行委員会は、「転換点〜地域と生命の再生に向けて〜」をテーマとして「開港都市にいがた 水と土の芸術祭2012」を開催いたします。

新潟市は、日本一の水量と延長を持つ信濃川、日本最大級の水量と清流度を持つ阿賀野川によって生まれました。この地で先人たちは、技術の粋を尽くして治水を行ってきました。水と土との激しい闘いを経て、新潟の人々は水と土と共に生きるまちを築きました。これら先人の知恵と大河が運んできた多様な土から生まれたのが、日本一の美田と美田が織り成す風景、食と花、そして水と土との闘いで疲れた心を癒す祭りや神楽などの伝統芸能です。水と土に感謝し、先人たちに敬意を表し、ここから生まれた文化を大切にし、これら水と土の宝物のすべてを次の時代を担う子どもたちに伝えていきたい。そして、アートの力で新潟の素晴らしい水と土の文化を国内外に発信し、日本のどこにもない新潟の暮らし文化を広く世界に伝えていきたい。そういう思いから、「水と土の芸術祭」を開催します。

第2回目の開催となる水と土の芸術祭2012は、「転換点」をテーマに開催いたします。東日大震災は、これまでの考え方や生き方を問い直すべき転換点を迎えたことを決定的に印象づけました。芸術祭を通して、先人の営みを振り返るとともに、自らの今後について考え、対話していく場を設けたいと思います。新潟の人々の営みや行動を、改めて振り返ることに、一つの地域を超えた普遍的な意義を見いだしたいと思います。

本芸術祭は、信濃川下流域を中心に現代アートのほか、舞踏・ダンス、音楽、演劇、映像の領域で国内外で活躍する芸術家らも参加します。また市内各所では、市民の提案による様々な企画を展開し、水と土に育まれた歴史、文化を体感できる伝統芸能、食、祭り、街歩きなどでいらっしゃった方々をおもてなしします。さらに、「自然との共生」をテーマにしたシンポジウム、こどもプロジェクト、トーク・座談会などを行います。以上のような多彩なプログラムにより、鑑賞者を含め本芸術祭に関わる人々が、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」をじっくりと考え、意見を交わし、自分なりの「転換点」をそれぞれの内に見出せたら幸いです。

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号

## 新潟市 水と土の芸術祭 開催プロジェクトについて







#### 1. アートプロジェクト

市民や地域が様々に関わることのできる参加性の高さが今回の特徴の一つです。 万代島旧水揚場をはじめ、市内各地で、招聘と公募で選ばれた20~70代、約60組の作家による 作品展示を行います。

テーマは「転換点」。制作から展示まで、市民や地域が様々に関わることのできる参加性の高さが今回の特徴の一つです。人々の「主体性」に火をつける作家をお招きしました。新潟の歴史・文化・自然等の地域性を取り込んだフィールドワーク作品も多々あり、社会のマイノリティに目を向けた活動を紹介している点も特徴といえます。作品展示だけでなくパフォーマンス、ワークショップ等、多様なプログラムを5カ月にわたり展開します。芸術祭を通じ、アクションやアイデアの種が地域や人々にまかれ、閉幕後もそれが育っていく…そんな夢を思い描き、プロジェクトに取り組んでまいります。

#### 2. 市民プロジェクト

水と土の芸術祭2012は、市民が主役の芸術祭でもあります。 水と土に育まれた新潟市の暮らし文化の魅力を引き出し、発信する市民の企画・実施によるプロジェクトを募集し、支援します。芸能、アート、食、おもてなし、まち歩きなど、イベントのみならず、まちづくりや地域の活性化に繋がる多彩なプロジェクトが展開されることで、より参加性の高い、市民や地域が主体となって関わることのできる芸術祭を目指します。



# 言葉による 論理的な位置づけ。 言葉 シンポジウム 講演、対談、討論

#### 3. シンポジウム

テーマ: 自然との共生 - 人・まち・地域の自然力をいかす - (特別編含め全 5 回開催) 東日本大震災以、制御しきれない自然力を目の当たりにして、いままで近代的科学技術を過信し、自然を蔑ろにしていなかったか問い直されています。自然を享受するだけでなく、自然への感謝と返礼を忘れない関係をつくり直し、人・まち・地域が自然力を身につけるべき時なのではないか。過去・現在を共に振り返り、未来を切り開く機会とするべく、「自然との共生」を考える連続シンポジウムを開催します。

シンポジウム総合コーディネーター:大熊 孝(実行委員会参与、新潟大学名誉教授) 水と土の芸術祭は、自然から遊離してきた都市・新潟で足元の自然を見直し、私達が生かされてきた自然に感謝するお祭りだと思います。私は川を通し自然と人の関わりを研究してきましたが、越後平野の開発は"水と土との闘い"が行き過ぎ、自然が失われており、今一度、自然との付き合い方を考え直す必要があると思います。各界の皆さんと領域を超えて、自然との共生について大いに議論し、未来への糸口を見出したいと考えています。

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号

## 新潟市 水と土の芸術祭 開催シンポジウムについて



Water and Land - Niigata Art Festiva

#### 【第1回】「"自然との共生"とは?—3·11震災から学ぶ」

日時:2011年12月11日(日) 13:00~16:30(終了しました) 会場:だいしホール(新潟市中央区東堀前通7番町1071-1)

舞い:堀川 久子(舞踊家) 挨拶:篠田 昭(新潟市長、実行委員長)

講演:大熊 孝「転換点-"自然との共生"の覚悟」

畠山 重篤(牡蠣養殖業)「3・11大津波を受けて、これからも海に生きる」 内山節(哲学者)「自然と人間の関係の基層-日本における自然信仰の意味」

パネルディスカッション:「自然との共生とは?」 司会・コーディネーター: 遠藤 麻理(フリーアナウンサー) パネリスト: 内山 節、大熊 孝、篠田 昭、畠山 重篤、堀川 久子

#### 【第2回】「見えない世界とあそぶ術(アート)」

日時:2012年7月14日(土) 14:00~17:00

会場:新潟市民プラザホール(新潟市中央区西堀通6番町866番

地 N E X T 2 1 ビル 6 階)

挨拶:小川 弘幸(水と土の芸術祭2012プロデューサー)

講演:中沢 新一(思想家、人類学者)「新潟アースダイバー入門」 パネルディスカッション:コーディネーター:小川 弘幸

パネリスト: 中沢 新一、宇梶 静江 (芸術祭参加作家)、華雪 (芸術祭参加作家)、 吉原 悠博 (芸術祭参加作家)、加藤 種男(水と土の芸術祭2012アドバイザー)

## 【第3回】「身近な自然と生きる――良寛的いきかた」

日時:2012年9月16日(日) 14:00~17:00 会場:新潟市民プラザホール(新潟市中央区西堀通6番町866番 地NEXT21ビル6階) 挨拶:大熊孝

講演: C.W.ニコル(作家、環境保護活動家、探検家) パネルディスカッション: コーディネーター: 上田浩子(デザイナー) パネリスト: C.W.ニコル、宮尾 浩史(宮尾農園)、旗野 秀人(冥土のみやげ企画)、 高橋 郁丸(民俗学研究家)、加藤 準一(川漁師)、 佐藤 安男(ワンダーにいがた)

## 【特別編】「異界との対話(ダイアローグ) 一実践としての写真」

日時:2012年10月28日(日) 15:30~17:30

会場: 旧笹川家住宅 (新潟市南区味方216番地) 国の重要文化財

コーディネーター:石川 直樹(芸術祭参加作家)

出演:赤坂 憲雄(民俗学者、学習院大学教授)、伊藤 俊治(美術史、美

術·写真評論家、東京藝術大学教授)

#### 【第4回】「共生する世界へ―縄文、みちのくからの問い」

日時:2012年11月18日(日) 14:00~17:00 会場:新潟市民プラザホール(新潟市中央区西堀通6番町866番 地 N E X T 2 1 ビル6階)

挨拶:大熊孝

講演:小林 達雄(考古学者、新潟県立博物館名誉館長)、 赤坂 憲雄(民俗学者、学習院大学教授、福島県立博物館館長) パネルディスカッション:コーディネーター: 大熊 孝 パネリスト:小林 達雄、赤坂 憲雄、小川 弘幸、篠田 昭

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号

## 新潟市 水と土の芸術祭 開催概要



# 開港都市にいがた 水と土の芸術祭2012

テーマ: 転換点~地域と生命(いのち)の再生に向けて

 $\mu$ : 7 / 14 sat -12 / 24 mon

場:万代島旧水揚場(メイン会場)、旧齋藤家別邸、信濃川やすらぎ堤、ほか市内各地。

開催プロジェクト:水と土の芸術祭は3つのテーマを軸とし、感性、記憶、言葉。それぞれの側面でテーマを捉えます。

1.アートプロジェクト:約65の作品展示、参加型プロジェクト、パフォーマンス、ほか

2.市民プロジェクト:・市民プロジェクト(まち歩き、伝統芸能、おもてなし等、市民が企画・実施するプロジェクト)

・こどもプロジェクト(アートワークショップ、鑑賞活動など)

3.シンポジウム:「自然との共生」をテーマにしたシンポジウムと楽しく学べる「みずっち学校」

パスポート:前売り1,500円/当日2,000円※学生・シルバー割引あり。中学生以下無料 ※詳細情報はこちらのHPをご覧ください。 http://www.mizu-tsuchi.jp/passport/

#### ◎ 開催会場



#### メイン会場

#### 万代島旧水揚場 〒950-0078 新潟市中央区万代島4-1

- 新潟駅万代口から 1.7Km
- 食の名物市場「ピアBandai」 徒歩8分
- 佐渡汽船ターミナル 徒歩10分
- 国際会議場「朱鷺メッセ」 徒歩2分 水上パスのりば 徒歩10分

## ▼アクセス



メイン会場は、新潟港に位置する万代島旧水揚場。全体設計は「みかんぐみ」を共同主宰する曽我部昌史さんが手掛けます。



▲ メイン会場:万代島旧水揚場



▲ 旧齋藤家別邸



▲ 信濃川やすらぎ堤

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号

## 新潟市 水と土の芸術祭 プロデューサー・ディレクターのプロフィール



#### プロデューサ:小川弘幸 /イベントプロデューサー・NPO法人文化現場代表

1962年新潟県新潟市 (旧新津市) 生まれ、同市在住。現代美術を主に扱う民間運営の美術館 (創庫美術館点) 勤務などを経て、1992年イベントプロデューサーとして独立。文化現場を設立し、新潟の独自性をいかした各種ジャンルの文化イベントの企画制作を行う。

2004年NPO法人に移行。NPO法人新潟絵屋理事、NPO法人越後妻有里山協働機構理事、新潟市美術館運営協議会委員。映画「阿賀に生きる」製作委員会委員、阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業 (新潟県) 総合プロデューサー、新潟政令市誕生記念「春、祝祭」実行委員長、水と土の芸術祭2009市民サポーターズ会議代表、水と土の芸術祭2012構想検討会座長などを務める。編著に『甦る坂口安吾』、新潟・文化批評誌『風だるま』など。

#### ディレクター:佐藤哲夫/美術教育研究者・新潟大学教育学部教授

1958年香川県生まれ、新潟市在住。筑波大学芸術専門学群(芸術学)卒業。筑波大学大学院博士課程芸術学研究科退学。2003年より現職、美術教育学を教えている。生態学、イメージ論、社会学など多領域に跨る視点から、美術と美術教育の基礎を探求。主な論文に『再現=表象批判としてのポストモダニズムの芸術』(1992)、『美術という空間、美術教育、そしてエロス』(1998)、『主体の境界を越えることーアフォーダンス・リズム・美術教育 -』(2003)。

#### ディレクター: 丹治嘉彦 / 美術家、新潟大学教育学部芸術環境講座教授

1960年福島市生まれ、新潟市在住。東京芸術大学大学院美術研究科(絵画)修了。2011年より現職。1985年から東京日本橋などの画廊で発表を展開した後、2003、2006、2009年「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」にて作品を発表。また2009年水と土の芸術祭では<CIRCULATION>、2010年瀬戸内国際芸術祭において<海を繋ぐもの>を発表した。また2007年、新潟県立近代美術館にてプロジェクト<船というタイムマシーン百年の夢から>を実践。2008年には横浜BankARTにて「開講 5 都市モボモガを探せプロジェクト」に参加。2001年より隔年で新潟市内野地区を舞台にアートプロジェクト「内野DEアート」をプロデュースなど。

#### ディレクター: 竹久侑 /キュレーター・水戸芸術館現代美術センター学芸員

1976年大阪府生まれ、茨城県水戸市在住。慶応義塾大学総合政策学部卒業後、写真家の事務所での勤務を経て2002年に渡英。ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ修士課程クリエイティブ・キュレーティング修了。インディベンデント・キュレーターとして展覧会の自主企画などに携わる。2007年より現職。2009年より20代から40代のデザイナー、アーティスト、会社勤め人、学生などでつくる任意団体MeToo推進室メンバー。公私を跨がりさまざまなプロジェクトの実践を通して、芸術と社会、芸術とコミュニティの関係性、芸術の公共性について探求している。主な展覧会として「リフレクション一映像が見せる"もうひとつの世界"」、「大友良英『アンサンブルズ2010一共振』」、主な企画プロジェクトとして「アンサンブルズ・パレード」。

## ディレクター:堀川久子/舞踊家

1955年新潟市生まれ、同市在住。美学校小杉武久音楽教場に学ぶ。即興のための身体を求め、舞踊家田中泯に師事、踊り始める。1978年~1998年の身体気象研究所、舞塾、スペースplanB、身体気象農場などの田中泯の全活動を共に行なう。農民生活はその後の思考、舞踊に多くの影響を与える。1988年~1997年「アートキャンプ白州(白州・夏・フェスティバル)」の実行委員として運営に携わる。1998年新潟市へ移住。以来、新潟市を拠点に舞踊活動、海外での公演も多数。新潟の様々な場所、路地、米蔵などでも踊る。2006年「昔ながらの盆踊りを応援する会」を立ち上げ、新潟市の盆踊りを訪ね、紹介などその賑わいに力を注いでいる。2009年「水と土の芸術祭」では秋から冬の12回の野外アート作品を巡る独舞公演のほか、幼稚園児たちとの泥ん子舞踏団、獅子神楽祭り、市民劇団民話劇などの地域発信の市民プロジェクトに参画した。

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号







#### 石川直樹

1977年東京都生まれ。写真家、2000年Pole to Poleプジェクトに参加して北極から南極を人力踏破、2001年に七大陸最高峰登頂を達成。人類学、民俗学などの領域に関心をもち、行為の経験としての移動、旅などをテーマに作品を発表し続けている。写真集「THE VOID」(ニューハイメディア/2005)により、さがみはら写真新人奨励賞、三木享賞受賞。「NEW DIMENSION」(赤々舎/2007)、「POLAR』(リトルモア/2007)、「VERNACULAR』(赤々舎/2008)を含む近年の「活動によって東川賞新人作家賞を受賞。2010年、『不RCHIPELAGO』(集英社/2009)により、さがみはら写真賞、「FORONA」(青土社/2010)により、2011年土門拳賞受賞した。著書に「最後の冒険家」(集英社/2008)ほか多数。





#### イリーナ・ザトロフスカヤ

1954年モスクワ生まれ。画家の家庭に生まれ、5歳から詩作と 絵を描き始める。1971~1976年ポリーグラフィックインスティ テュートで絵画とグラフィックを学ぶ。1979年モスクワアー ティストユニオンに加盟。最初の個展は1989年のロンドン、以 後世界各地で開催。古い木片、クロゼット、ワードローブのド ア、ブリキ、岩などに絵を描く作品で知られる。 2002年モスタワ美術家同盟会員となる。2008年シベリアに長 期間滞在、作品制作を行い、モスクワで・フォースシベリア"を 発表。村の人々の暮らし、本、肖像画などからヒントを得て、生 活の主観と客観を描く。フレスコ、絵画、陶器、書籍デザイン、 詩作、刺繍等広範囲に活躍、挿絵を担当した劇作家アントシ・ ト・チェーホフの絵本(チェーホフ・コレクション)は、現在、日 本で未知名より出版されている。





#### 宇梶静江

1933年北海道浦河郡生まれ。詩人・古布絵作家・絵本作 家・アイヌの解放運動家。首都圏のアイヌ民族4団体でつく るアイヌ・ウタリ連絡会代表。20歳で中学に入学し、卒業後 上京。働きながら苦学。結婚後は次々と上京するウタリ(同 胞) たちの面倒をみながら、2児を育てる。1972年朝日新聞 に「ウタリたちよ、手をつなごう」を投稿し、反響を呼ぶ。翌 年東京ウタリ会を結成し、アイヌ権利獲得のための活動を 始める。1996年アイヌ刺繍を勉強し直し、和服地を用いて 伝統刺繍でアイヌの精神世界を表現することに成功。海外 からも高い評価を得て、各地で作品展を開く。2004年アイヌ 文化奨励賞を受賞。2008年北海道の洞爺湖で開かれた「先 住民族サミット・アイヌモシリ2008」に、アイヌ代表の一人と して出席。2011年吉川英治文化賞受賞。著書に『シマフクロ ウとサケ』『セミ神さまのお告げ』(ともに福音館書店)『すべ てを明日の糧として一今こそ、アイヌの知恵と勇気を』(清流 出版)『宇梶静江詩集 ヤイコイタクひとりごと(仮)』(銀 の鈴社/2012.7)など。



hoto by Peter Gannushkin



#### 大友良英 ※飴屋法水たちとのコラボレーションによる参加

1959年横浜生まれ。ギタリスト、ターンテーブル奏者、作曲 家、プロデューサー。10代を福島市で過ごす。常に同時進行 かつインディペンデントに多種多様な作品をつくり続け、そ の活動範囲は世界中に及ぶ。音響を用いた作品など幅広く 手がけ、即興や歌をテーマにした作品も多い。映画音楽家と しても数多くの作品を手がけ、中国映画からNHKドラマまで その数は70作品を超える。近年は「アンサンブルズ」の名のも と、さまざまな人たちとのコラボレーションを軸に展示する 音楽作品や特殊形態のコンサート開催と同時に、障害のある 子どもたちとの音楽ワークショップにも力を入れている。現在 は「プロジェクトFUKUSHIMA!」の共同代表として、3.11の大 震災に伴う問題について、芸術文化を通して考える活動を展 開中。主な展覧会として、2010年「大友良英『アンサンブル ズ2010-共振』」(水戸芸術館現代美術ギャラリー)、2008 年「大友良英ENSEMBLES」(山口情報芸術センター[YCAM])。 著書に『MUSICS』(岩波書店/2008)、『大友良英のJAMJAM 日記』(河出書房新社/2008)、『ENSEMBLES』(月曜社/ 2009)、『クロニクルFUKUSHIMA』(青土社/2011)。





#### 飴屋法水たち ※大友良英とのコラボレーションによる参加





#### 梶井照陰

1976年新潟県生まれ。1999年高野山大学密教学科卒業。 16歳の頃より写真雑誌などで作品を発表し始める。1995年 ~1999年、高野山で修行。ベトナム、カンボジア、タイ、パプ アニューギニア、イギリス、中国など、世界各国を訪ね、積極 的に取材して歩く。2004年佐渡の波を揚り続けたシリーズ 「NAMI」で、第1回フォイル・アワードを受賞、写真集 『NAMI』(リトルモア・フォイル/2004・2007) を発表する。 本作で2005年度日本写真協会賞新人賞を受賞。その後、日 本各地で過疎化の進む集落を取材し、フォト+ルポルター ジュとして一冊にまとめた『限界集落-Marginal Village』 (フォイル/2008)を発表。2009年その活動が認められ、五 島記念文化賞美術新人賞を受賞。2010年世界の川を撮影 しまとめた写真集『KAWA』(フォイル)を発表、同シリーズで 写直展を開催する。そのほか個展・グループ展は国内外で 多数。現在、佐渡島にて真言宗の僧侶をするかたわら、写真 家としての活動を行う。

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail: igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号







hoto by 水谷達朗



心に活動を続ける。刊行物に、写真家・ホンマタカシ氏ディ レクションによるプライベートプレスbetween the booksか ら『ATO 跡』(between the books / 2009)、写真集やアート ブックを多く手掛ける赤々舎から『書の梼帆』(赤々舎/ 2006)、京都新聞夕刊で連載された篆刻と文章をまとめた 『石の遊び』(平凡社/2003)などがある。また、〈字を書く〉 ことを軸としたワークショップを各地で行う。作家活動の他 に、「戦争×文学」(集英社)、「石原慎太郎の文学」(文藝春 秋)をはじめ書籍の題字も手がける。





#### カミン・ラーチャイプラサート

1964年タイ生まれ。現在チェンマイを拠点に活動。1987年 バンコク・シラパコーン大学版画科卒業後、ニューヨークに 渡り、1989~1990年アートスチューデントリーグオブニュー ヨークに在籍。1990年<プロセス重視型アート>としてのター ニングポイントとなる個展「タイムアンドイクスペリアンス」を 開く。1995年仏教思想に傾倒し、自身の生活をアートに取り入 れる。1998年から現在まで、ヴィパサナー瞑想法と文化交流 を取り入れたプロジェクト「TheLandProject」を運営。2 002~2005年には、若手アーティストや文化人のための 実験的アートスペース"Umong Sippadhamma"を開く。2008 年、金沢21世紀美術館での「31世紀こころの美術館」は、「誰も が一つは良いところを持っており、私たちはアートの一部であ る」というコンセプトのもと展開。以後、2011年チェンマイやシ カゴでも「31世紀こころの美術館」を展開した。





#### 坂巻正美

1961年千葉県生まれ。北海道在住。北海道教育大学(芸術 課程)准教授。1988年東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。 制作拠点である北海道におけるアイヌや本邦・東北地方の マタギに伝えられてきた狩猟採集の技術や思想は、海を越 えロシア極東からベーリング海を経て北米北西海岸へと連 なる各地域の北方先住民における生態系文化として共通 し、そこに人が生きることの原形を見る。2005年から環北太 平洋北方圏の先住民文化について実地調査を開始し、狩猟 や祭礼の現場等、土地の記憶をもとに各地で得たオブジェ や対話、映像記録等を造形素材に、その現代的意義を考察 し、フィールドワークのドキュメントとして作品を発表してい



Photo by Takehiro Goto (YUKAI)



#### 佐々木愛

1976年大阪府生まれ。大阪在住。人々が心の中に持つ「記憶」 から呼び起こされるような世界を、身近な素材を使用したイン スタレーションやペインティングにより発表している。中でも 砂糖によるインスタレーション作品を積極的に制作している。 滞在先の風景を元に、古い文様や物語からイメージした作品 は、限定された期間で展示され、やがては取り壊され、鑑賞者 の記憶にのみ残される。近年は青森、韓国、ニュージーランド 等のアーティストインレジデンスに積極的に参加。2010年に は、ポーラ美術振興財団在外研修生としてオーストラリアに滞 在。直近のグループ展に、2011年「WALKING 歩行という経験」 (モエレ沼公園ガラスのピラミッドギャラリー)、「内在の風景 -immanent Landscape」 (小山市立車屋美術館) ほか。



Photo by Haruka Hirose



#### 下道基行

1978年岡山県生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵 科卒業。幼い頃は考古学者になることを憧れており、現在で は、写真や文章を表現手段に、モノ/コトの残り方/消え方 や、目の前に広がる風景の在り方に興味を持ち、旅やフィール ドワークをベースに、展示や出版等で表現を続けている。大学 卒業後日本全国を旅し、2005年日本全国に残る軍事遺構の現 状を調査撮影した「戦争のかたち」を発表。その後、自らの祖 父の遺した絵画を探した「日曜画家」、日本の国境線の外側に 遺された鳥居の現状を調査する「(torii)」、用水路に架けられ た木の板やブロックで出来た"橋のようなもの"を撮り集める 「bridge」などを制作。直近の主な展覧会に、2012年「この素晴 らしき世界」(広島現代美術館)、「再考現学/痕跡の風景」(国 際芸術センター青森)、2011年個展「bridge/風景の再起動」 (Gallery a M/東京)、2010年個展『日曜画家』(水戸芸術館ク リテリオム79) など。



Photo by 木暮伸也



#### 白川昌生

1948年北九州市戸畑生まれ。美術作家。国立デュッセルドル フ美術大学卒業。群馬県立女子大学講師、前橋工科大学講師 など。1993年に地域とアートをつなぐ美術活動団体「場所・群 馬」を創設。2002年北九州ビエンナーレでの「アートと経済の 恋愛学」(北九州市立美術館)、2007年「フイールドキャラバン 計画」(群馬県立近代美術館)、2011年「駅家の木馬祭り」(前 橋市美術館準備室)など、国内外でのアート活動がある。主な 著書に(以下、いずれも水声社) 『日本のダダ1920-1970』 (1988・2005)、『美術、市場、地域通貨をめぐって』(2001)、『美 術、マイノリテイー、実践』(2005)、『美術、記憶、生』(2007)、 『フィールドキャラバン計画へ白川昌生2000-2007』(2007)、 『美術館、動物園、精神科施設』(2010)、『西洋美術史を解体す

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail: igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号





#### 曽我部昌史+神奈川大学曽我部研究室

1962年福岡県大牟田市生主れ、建築家、みかんぐみ共同主 宰、神奈川大学工学部建築学科教授(2006年~)。1988年 東京工業大学大学院修士課程修了。1988~1994年伊東豊 雄建築設計事務所。1994~1995年東京工業大学建築学科 助手。1994年ソガベアトリエ設立。1995年みかんぐみ共同 設立。2001~2006年東京芸術大学先端芸術表現科助教 授。店舗の内装から保育園や老人ホームなどの設計を行う 一方、ワークショップの企画運営や評論の執筆、アートプロ ジェクトなど、建築の枠にとらわれない様々な活動を展開し ている。主な作品として、「八代の保育園」(2001)、「北京建 外SOHO低層商業棟 (2003)、「2005年日本国際博覧会ト ヨタグループ館」(2005)「横浜開港150周年記念イベントパ ビリオン」(2009) など。主なアートプロジェクトに、越後妻 有の古民家を改修した「BankART妻有」(2006)、上勝町の 間伐材を利用した「もくもくもく」(2007)、横浜市の京急高 架下文化芸術活動スタジオ「黄金スタジオ」(2008)、 「BankARTLife III 新・港村」(2011) の会場構成などがある。





#### タノタイガ

東京生まれ、仙台育ち。東京造形大学造形学部卒業。東北芸術 工科大学大学院芸術工学研究科芸術文化専攻彫刻コース修 士課程終了。立体造形、映像、パフォーマンス等、多様な表現 手法によって、記号性と媒体性を誇張した風刺的表現を行う。 ときには、作者自身を媒体化することで日常に埋もれた社会 や集団の倫理性を表出させ、作品の中にはユーモアと毒を兼 ね備える。また美術館やギャラリーでの作品発表のほか全国 の学校やアートイベントでワークショップなどを手がける。主 な展覧会に、2006年「コネクティング・ワールド」(NTTインター コミュニケーション・センター [ICC])、2008年「wanakio2008 「まち中のアート」」(前島アートセンター、那覇市栄町市場/ 沖縄)、2009年個展「T+ANONYMOUS(タノニマス)」(現代美 術製作所)、「現代美術も楽勝よ。」(水戸芸術館現代美術セン ター) など。



Photo by 下道基行



#### 冨井大裕

1973年新潟県生まれ。1999年武蔵野美術大学大学院造形 研究科彫刻コース修了。2011年より日本大学芸術学部助 教。最初は石膏による小さな人型の作品を発表していた が、既製品を台座に使用した人型のシリーズを経て、現在 は既製品のみを組み合わせた作品を制作している。その素 材にはビニルテープやストロー、ポストイット、画鋲、キッチ ン用スポンジ、カーペットにハンマーなど様々な日用品や 生活用品を用い、それらを並べる、重ねる、束ねる、折り曲 げるなど非常に簡単な手法で組み合わせて造形作品とす る。既製品を元来の機能や意味から解放し、色やかたちに まで還元し組み合わせることで彫刻を実践している。





#### Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)

中崎透、山城大督、野田智子の3名で構成される「本末転倒 型オフビートユニット」。2006年より活動を開始。地域コミュ ニティにコミットし、その場所において最適な「口実」を立ち上 げることから作品制作を始める。インスタレーション、イベント などに様々な人々を巻き込み、「口実」によって「現実」が変 わっていくプロセスを作品として展開する。代表作に2010年、 100名を越える市民スタッフと共に地元メディアをも巻込んだ 24時間だけのインターネットテレビ局「240URTELEVIS IONI(国際芸術センター青森)がある。2011年、初の海外作 品となる「Yellow Cake Street」 (Perth Institute of Contemporary Arts、パース/オーストラリア)では、架空の オーストラリア家庭料理「イエローケーキ」のレシピを地元 シェフや市民と考案し、期間限定のケーキ店の開業を実現さ



Photo by 洞沢佐智子



#### 西野達

1960年愛知県生まれ。武蔵野美術大学を卒業後、1987年 にドイツに渡る。ミュンスター芸術アカデミーで彫刻を学ん だ後、1997年より、大聖堂の風向計を取り込んでリビング ルームのようなプライベート空間を創ったり、コンテナをク レーン車でつり上げた部屋をカフェとして営業したりと、街 の公共物を取込んで大掛かりなインスタレーションを手が ける。ベルリンを拠点に、2005年ロサンゼルス現代美術館、 2009年「カルダープロジェクト」(シドニー/オーストラリ ア)、「ナント・ビエンナーレ」(フランス)、2011年「シンガ ポールビエンナーレ」など世界中で数多くの作品を発表し ている。近年は、2005年「横浜トリエンナーレ」、2006年メゾ ンエルメス (銀座) での「天上のシェリー」、2007年森美術館 での「MAMプロジェクト006」、2010年「あいちトリエンナー レ」など、国内での発表も増えている。





#### 原口典之

1946年神奈川県生まれ。1970年日本大学芸術学部美術学 科卒業。"第7回現代日本彫刻展"で作家活動を始める。1969 年に発表した「A-4E Skyhawk」は、深夜に目撃した戦闘機から 着想を得た作品。1977年、ドクメンタ6にて廃油を満たした 巨大な鉄のプールを発表。このシリーズは身体が錯覚を引き 起こすほどの非現実的な風景として成立している。2001年に 「NORIYUKI HARAGUCHI」(ミュンヘン市立レンバッハハウス 美術館)、2009年に「社会と物質」(Bank ART Studio NYK、横 浜)と大規模な個展を開く。横浜では、「A-4ESkvhawk」の 続編ともいうべき作品「F-4 Phantom」を発表。究極の人工的 物性を用いながらも確かな存在を与える作品は、見ることの 意識を呼び覚し、あらゆる予想を裏切り続ける。

#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail: igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号







Photo by 後藤弁



#### 日比野克彦

1958年岐阜市生まれ。アーティスト。東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科教授。東京藝術大学在学中の1983年に日本 グラフィック展にて、段ボールを素材とした作品でグランプリ を受賞し一躍脚光を浴びる。その後、舞台空間・パブリッアー トなどにも表現の領域を広げる。またパフォーマンスなどの身 体・言語を媒体とした作品も制作。1996年にはベネチアビエ ンナーレに出品するなど、海外での個展を多数開催。2000年 以降は、表現者からの視点だけでなく、受け手の感じ取る力を テーマとした作品を制作。全国の様々な地域で参加者と共同 のワークショップを行いながら、社会で芸術が機能する仕組 みを創出している。またアートとスポーツの文化的視点からの 融合を目指して日本サッカー協会理事を務める。震災後、復興 支援活動「HEART MARK VIEWING」を立ち上げ、モノを作る 喜びを取り戻すきっかけを作り、人と人を繋ぐ試みを行う。 「水と土の芸術祭2009」でも展開した「明後日朝顔プロジェ クト」は、10年目を迎える。





#### 藤浩志

1960年鹿児島生まれ。パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室勤務。
一般的に価値が認められていない存在(意識)を特別な状態に立ち上げる技術=アートとして捉え、「地域資源、適正技術、協力関係」を活用したデモンストレーションとしての表現を試みる。最終的なイメージの制作を避け、システム構築のペクトルを提案・実践することで、活動のプロセスと態度から拡がる期待感や可能性、予測不能な物語の発生をプロジェクトの柱としている。近年の活動として2008-2009年「かジネタンステム」(サイトサンタフェビエンナーレ、水都大阪2009)、2010年「藤島八十郎をつくる」(瀬戸内国際芸術祭2010)、「Toys Paradise」「Kaeru Station」(3331 Arts Chiyoda)、2011年「Miracle Waterをつくる」(としまアートステーションZ)等。



#### 滕井光

1976年東京都生まれ。パリ第8大学美学・芸術第三博士課程DEA卒。2005年帰国以降、社会運動と芸術の関わりをテーマに、現代日本の社会政治状況を映像メディアを用いて直載的に扱う表現活動を行う。「ビデオカメラを文房具のように」という考えのもと、各地でワークショップを開催。現在は、3.11の被災地でアーティストやアートNPO等が行う活動を中心に撮影し映像アーカイブを制作中。主なプロジェクト・展覧会として、2010-2011年「自分のメディアを創る」(山口情報芸術センター【YCAM】)、2010年「いま、パリアとは何か」(せんだいメディアテーク)、2010年「リフレクション一映像が見せる"もうひとつの世界"」(水戸芸術館現代美術ギャラリー)など。



#### 吉原悠博

1960年新潟県新発田市生まれ。140年の歴史を持つ新発田市「吉原写真館」館主、新潟大学非常勤講師、敬和学園大学非常 動講師、東京藝術大学油絵科卒業。在学中、ニューヨークの アートスクールPratt Instituteへ留学。1981~2004年まで、東京とニューヨークを中心に活動、新しいテクノロジーと絵画の 融合、音楽家とのコラボレーション等、それまでの美術のフレームを超えるダイナミックな作品を制作。また、パブリック アートとしてホテル、公共施設での作品設置、アートディレクションを務める。現在は、故郷である新潟県新発田市に活動の 旭点を移し、新潟の史実等を題材とした映像作品を多数発表 | 続けている。



#### wah document

各地へ赴き、一般募集した参加者とその場で出し合ったアイデアやその街で集めたアイデアを即興的に実行する参加型表現「wah (ワウ)」をメインに活動。アイデアが作品になる、感覚がソクッとするような瞬間に共感を生み出すことを目的に活動を展開中、wah documentは、その運営と記録を行っている活動を使用である。主な活動の場としては「wah lab」(東京都現代美術館・川俣正「通路」展)、「アトリエほうさく」(北海道東士狩小学校家庭科室)、「wah office」(埼玉県北本市)など。「隅田川アトプロジェクト2009」(東京)、「大地の芸術祭 越後奏有アートトリエンナーレ2009」(新潟)、「A Blow to the Everyday」(香港・中国 などに参加している。



#### 渡辺菊眞+高知工科大学渡辺菊眞研究室

1971年奈良県生まれ。高知工科大学准教授、建築家、D環境造形システム研究所主宰、1994年京都大学工学部建築学第二学科卒業。1997年同大学大学院工学研究科生活空間学修士課程修了、2001年同大学院博士課程満期退学。「京都の「山辺」の空間的特質に関する考察"など、日本の空間特質を研究。2001年から天理大学と共同で土養(どのう)建築の設計と施工を国内ならびにインドで行う。近年は、東アフリカ貧困緩和自立支援活動、ヨルダン女性自律支援活動など海外活動を通じて土養建築を主として、当地の伝統建築工法を混淆させたユニークな建築空間を現地住民とともに造り上げている。主なプロジェクトとして、2007-2009年「東アフリカ・エコビレッジプロジェクトとして、2007-2009年「南シューナ地区コミュニティセンター」(ヨルダン)、2010年「Good House」(美術家・高学格との共同制作、会沢21世紀美術館)などがある。



#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号





#### 王文志(ワン・ウェンヂー)

1959年台湾、嘉義県牛まれ、在住。国立台北芸術大学美術学院修 士課程修了後、フランスに4年間留学。籐、竹、木など自然の素材を 用いた大型のインスタレーションを数多く手がけている。現在、台 湾を拠点に活動中。主な展覧会に、1995年・2000年に台北市立美 術館における個展、2001年「ヴェネツィア・ビエンナーレ」、2009年「 水と土の芸術祭2009、2010年「瀬戸内国際芸術祭2010」、「台北国 際花の博覧会」など。受賞歴に、2010年「台北国際花の博覧会」(台 湾)におけるAIPH(国際園芸家協会)賞、優秀賞ほか。



#### 加藤立

1979年受知県生生れ、東京芸術大学建築科を卒業後 活動 を開始。東京を拠点に活動している。テーブルの上に表面 張力を利用して水で世界地図を描く「the ocean」や、電車 の動き出す慣性力を利用して電車内にレッドカーペットを 敷く「red carpet」など、主に自然が持っている力を利用した 作品を制作。主な展示に、2010年「第5回タグボートアワー ド」(タカイシイ賞)、2011年「SICF12」(南条史生賞)、2011 年「中之条ビエンナーレ2011」など。



#### 秋山ブク

新潟県南魚沼市生まれ。2001年に、「コンポジション (No.1):アレンジメント」を発表。竣工間もないせんだいメ ディアテークの備品だけで構成を行う。以降、東京、新潟、名 古屋、京都、大阪のギャラリー、店舗、倉庫、公民館、屋外公 園、催事場など、様々な土地と空間で「コンポジション」のシ リーズを継続している。最近作は2011年「コンポジション No.7:ラフォーレミュージアム原宿の備品による」。作品集 に『コンポジション No.2: 例外状態: hiromi voshiiの備品に よる』(Edition Nord+FARM/2009)。



#### 上山寛.

新潟県生まれ。新潟市在住。1978年日本大学理工学部建築 学科卒業。登録建築家。大学卒業後、Al Mansfeld建築事務 所(ハイファ/イスラエル)、H.Busse建築事務所(ミュンヘ ン/ドイツ)にて建築実務を修行。その後半年をかけて旅 行し4年後に帰国。「子供の頃は広大な亀田郷の畦道に座 り、広々とした水田地帯を走る蒸気機関車の絵をよく描い ていた。これが自身の原風景だったと思っている。建築をめ ざすことは、地域にとことんこだわること。新潟から世界へ 発信すること。建築は人の心を感動させ、未来をつくる力が あると考えている。これらはアートの世界も同じだと思う。」 近年はコンペやプロポーザルへの参加も多い。2006年「新 潟市上古町アーケードプロポーザル」優秀賞。2007年「長 岡シティーホールコンペ」2次審査進出。2012年「第14回ま ちの活性化・都市デザイン競技」新潟市長賞など。

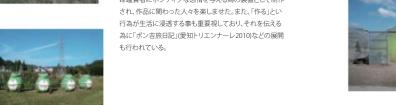


#### 大西治•大西雅子

京都府の農村部にて、連名で制作を行うユニット。2007年 「巨人の底力」から連名で活動を開始。作り、見られる為だ けの作品ではなく、鑑賞者が作品を見て得た感情そのもの も作品化するようなコンセプチュアルな制作を展開してい る。「ゲロンパ大合唱」(大地の芸術祭 越後妻有アートトリエ ンナーレ2009)では、農業を楽しんで行うためのツールとし て、「MUIMUI列車出発進行!」(神戸ビエンナーレ2011)で は鑑賞者にポジティブな感情を与える為の装置として制作 され、作品に関わった人々を楽しませた。また、「作る」とい 行為が生活に浸透する事も重要視しており、それを伝える 為に「ポン吉旅日記」(愛知トリエンナーレ2010)などの展開



北郷崇広、北川拓未、小出真吾からなるユニット。3人共に 1986年生まれ。新潟で建築と美術を学び、現在、福島・香 川・新潟でそれぞれの分野において活動している。「視覚的 な美しさと空間のダイナミックさの融合 |をテーマとし、一 つの素材を反復して用いる「繰り返しのかたち」を表現手法 としたインスタレーションを制作する。光や風などの自然の 要素や現象を取り込むことにより、その時々で異なる表情 を持つ作品を目指す。2007年に新潟市の内野町でビニー ルハウスを約3万本の水糸で埋め尽くすインスタレーショ ン「眠りに落ちる前」を制作。





#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail: igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号





#### 金泰範(キム・テボン)

受婦具生生れ、Architectural Association School of Architecture (AAスクール) (ロンドン) 卒業。韓国(ソウル) にてIROJE architects & planners 勤務後、インスタレーショ ンや実験的プロジェクトを手掛けはじめる。道具や機械、そ して都市に興味があり、おもに"人に使われるもの、消耗さ れる作品"を制作中。



#### 佐々木秀明

1958年東京都牛まれ。札幌市在住。筑波大学芸術専門学 群総合造形コース卒業。1994年から「雫を聴く」と題するシ リーズを中心に、青森のレジデンス、パリ、ルレオ(スウェー デン)などでも制作、発表している。ガラス容器に張った水 のレンズに雫を落とす装置は、水滴の微かな音、波紋の揺 らぎ、光と闇で空間全体を静謐な作品と化していく。2011年 の釧路芸術館の展覧会「共振芸術空間2011 佐々木秀明展 +アート5〈雫を聴く〉5週間」では音響、映像、舞踏など異分 野の表現者たちとの「共振」よって作品空間の様々な変奏



#### 近藤洋平

1984年岐阜県生まれ。2009年武蔵野美術大学大学院造形 研究科修了。日常の風景に作品が関わることで、その場所 に少しの変化を与えるインスタレーション作品を制作して いる。直近のグループ展に、2010年「松戸アートラインプロ ジェクト2010 ( (千葉県松戸市)、2011年 (第24回UBEビエン ナーレ(現代日本彫刻展)」(山口県宇部市)がある。



#### 佐藤仁美

年次在籍。(以下、自身のコメントより) 物事が起こり始めるためのシチュエーションをつくることに 興味をもち、空間的な視点から日々アイディアを出していま す。私たちが生きる世界は色んなモノが溢れている状況や 色んなモノがない状況などがあります。そこから何を導き 出して前へ進みますか。それは、自分の色、家族の色、都市 の色といった様々な関係に繋がるはずです。そのきっかけ づくりの場として私は自然と色彩を使い、人々の内にある記 憶やインスピレーションを掻き立てるような空間をめざし ています。大きくても小さくても心が動くことは、環境を変え

る源となります。それらが人生を豊かに彩れることを願って

1989年静岡県浜松市生まれ。武蔵野美術大学建築学科4





#### 照屋勇賢

います。

1973年沖縄生まれ、ニューヨーク在住。2001年ニューヨー クのスクール・オブ・ヴィジュアルアーツ修士課程修了。世界 各地の展覧会に参加し、国内外で評価される。2002年オー ルドリッチ現代美術館にて新人賞受賞。2005年ニューヨー クのPS1にてGreater New York 2005. 横浜トリエンナーレ 等で注目を集める。2007年「Shapes of Space」(ソロモン・ グッゲンハイム美術館)、2009年「愛についての100の物 語」(金沢21世紀美術館)などに参加。2011年カリフォルニ ア・サンタモニカのShoshana Wayne Galleryにて個展、秋 にはモスクワビエンナーレに参加,2012年6月には、シド ニービエンナーレの参加も予定している。





#### 坂爪勝幸

1947年新潟県村上市に生まれる。九州一円の朝鮮系窯場、 および韓国京畿道で作陶、築窯の技術を習得。1979~1985年 まで米国ニュージャージー州ピーターズバレー・アートセン ターで国際交流基金の要請で客員教授として赴任。在米中 ピーター・ヴォーカス氏の穴空焼成作品を担当。 自らは、米国の現代美術の影響を受け、在米中より陶磁器 による大きな野外インスタレーションを制作。帰国後、2000 年大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ、2003年 県立万代島美術館で「坂爪勝幸の陶空間」を発表、またNHK/\ イビジョン番組『織部ニューヨークを行く』に出演してメトロポ リタン美術館・日本館で桃山時代の織部をガイドし、ニュー ヨーク大学の学生に「ニューヨーク織部」を制作させる。2009 年には燕喜館において「水のためのインスタレーション」(水 と土の芸術祭2009)、「SOFA Iin NewYorkに出品。2010年米 国、East Hanpton N.Y 「Jack LarsenLong house Gallery I 「SOFA」in Chicago、2011「SOFA」in New Yorkに出品。



#### ▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail: igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号







#### 戸井田雄

1983年神奈川県横須賀市生まれ。2008年武蔵野美術大学 大学院修了。「時間」や「場所」をテーマとし、空き店舗に残 された傷跡を蓄光塗料でトレースする事で、その場に残さ れた記憶の痕跡を光として現す「series時を紡ぐ〜Marks 〜」(第8回声原義信覧、神戸ピエンナーレ2011 高架下 アートプロジェクト特別賞受賞)や、大地を掘削して、その 場に積層した時間の重なりを表に現す「断面」(卒業設計日本一決定戦2006 特別賞受賞)など、その場所の普段は意 裁現する、また、近年ではユニットPate Projectを結成し、そ の活動の場を広げている、と





#### 樋口薫

1958年生まれ、1979年、1915年創業の樋口左官(新潟県村松町)に就業。1992年京都遊学、1993年新潟市の創庫美術館で左官作品展を開催。土壁、漆喰、三和土(たたき)の工事を神社仏閣古民家で続ける。新潟市内では天寿園のなまご壁、本町通の大橋屋、仏興寺の宝物蔵、個人所有の茶室の新築修理を手がける。県内では文化財の二宮邸土蔵修理、目黒邸修復、長会川邸修復に参加。東京都世田谷区給田小学校で木舞荒壁、世田谷区東宝撮影所内で映画「蝉しぐれ」のセットで木舞荒壁を手がする。一級左官技能士、二級建築士、新潟県文化財保護指導員。





1977年香川県生まれ。2002年東京造形大学研究科修了。「土」そのものを素材としてフィールドワークを基にした風景画やインスタレーション作品を制作する美術家。これまでに「伊勢語で」、「江戸五街道」、「富士講」、「東京湾」、「熊野古道」、「山岳信仰」など日本人の旅や移動から生まれた宗教観や風俗、風景観に沿った題材を制作し続けてきた。実際に自身の足で歩き、題材となる現地に赴き、町や山々の景色を観察・収集し制作している。2010年「ULTRA003」(SPIRAL)、2011年「ジドング展」(高島屋、東京、大阪、京部)「中之条ビエンナーレ2011」。個展に2007年「東京湾」(switch point)、2008年「富士登山」、2009年「際景〜伊勢詣1〜」、2011年「際景〜伊勢詣2〜」(ユカリアート)ほか。



## 藤江竜太郎

1978年広島県生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科を修了後、2008年よりドイツ・アラヌス大学大学院にてランドアートを学ぶ、地域型プロジェクトや野外展示をメインに、日本の伝統的な表現や文化を意識的に利用し、現代社会では目を向けづらくなってしまった日常の中の悠々として繊細な自然の変化を感じるきっかけとなるインスタレーション作品を発表している。2009年ポーラ美術振興財団在外研修員としてドイツにて研修。



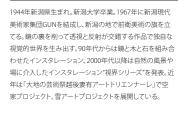
#### 西村正徳



1967年愛知県生まれ。大阪芸術大学卒業後主に野外金属 彫刻を中心に活動開始。大分県朝倉文夫記念館庭園、神戸 の(株)シスメックス庭園などにパーマネント彫刻を設置。 近年は場所や空間に積極的に絡みながら、見えだけでなく 体験できるテントシートを使用した巨大インスタレーショ ン作品を発表している。子どもから大人まで遊び感覚でふ れあえる表現にこだわり、主な作品に、2011年六甲ミーツ アートで発表した、六甲山上展望台に設置し下界に向かっ て叫んでもらう巨大メガホン型作品(音量測定器付き)「メ ガメガホン=オオゴエの吹き出し」などがある。



#### 前山忠





▼本リリースに関するお問合せ

取材依頼、画像貸し出し、何かご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せくださいませ。

PR 担当 株式会社 Casokdo 五十嵐 洋 E-mail:igarashi@a-ms2.com

住所:〒141-0033 東京都品川区西品川1丁目6番4号